

新たな取り組み

「町田市下水道ビジョン」策定から5年が経過し、社会環境や経営状況、市民ニーズ等も変化しつつあります。そこで、新たに以下の5つの事業に着手します。



◆水路等の適正な維持管理の実施

2012年度、「水の一元化」を目的に水路の維持管理事務が下水道部へ移管となりました。

市内にある約197kmの水路について、基本的な情報を正確に把握するため、現況調査や管理図書の作成に取り組みます。これにより、有事の際も迅速に対応することができるようになります。

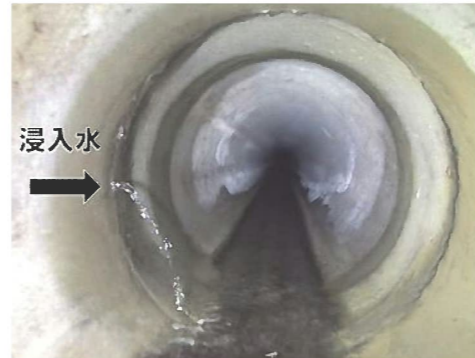
◆腐食環境下にある下水道管の点検の実施

2015年度下水道法改正において、硫化水素等による下水道管の腐食が起こりやすい箇所について、5年に1回以上の頻度で点検をするよう定められました。このことを受けて、町田市では1年に1回の点検を実施し、下水道管の腐食による重大事故を防止します。

◆污水管への浸入水対策の実施

下水処理場では、雨天時に流入水が増加する現象が発生しており、施設への負担が大きくなっています。この一因として、污水管の継手等からの浸入水が考えられます。

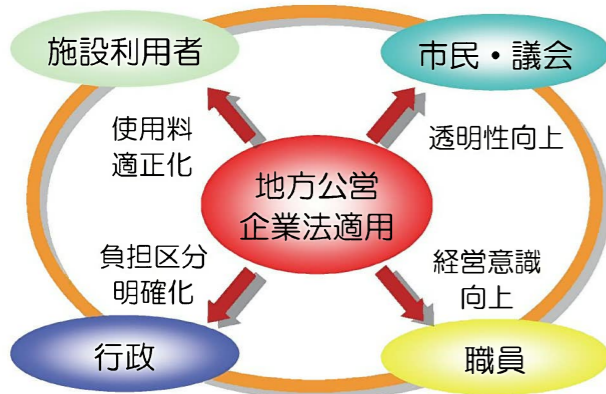
そこで、浸入水量を減らす取り組みを行い、下水処理費用の増加や水質保全等への影響を抑えます。



◆地方公営企業法の適用・◆経営戦略の策定

経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を目的として、2020年4月から「地方公営企業法の適用（以下、『法適』という。）」を行うとともに、「経営戦略」を策定します。

法適により、経営状況が他団体と比較しやすくなるため、事業の透明性が向上します。また、法適に際して資産を正確に把握することが必要であるため、計画的な修繕・更新を含む中長期的な経営が可能となり、安定的・継続的に下水道サービスを受けられるようになります。



町田市下水道アクションプラン (2017年度～2021年度)【概要】



町田市下水道アクションプランとは

町田市では、長期的な視野に立ち、今後の下水道のあり方に関する基本的な方針を示し、着実に下水道の役割を果たすことを目的として、2012年に「町田市下水道ビジョン」を策定しました。「町田市下水道ビジョン」で掲げた「次世代につなげる良好な水環境を目指して」という基本理念と3つの基本方針の実現に向けて事業を進めています。

3つの基本方針は

- 環境に配慮した施設整備を行い、**より良い環境**づくりを進めます
- 災害に強いまちづくりを進め、**安心な暮らし**を築きます
- 効率的で健全な経営を図り、**より良い下水道サービス**に取り組みます

ケロ!



町田市下水道キャラクター「雨かえる」

1964年度下水道事業着手以降、着実に下水道の普及に努め、下水道人口普及率は2015年度末で98.5%に達しました。今般の社会情勢は、少子高齢化の進行、大規模災害の発生、インフラの老朽化など、大きく変化しています。下水道事業においても、「建設の時代」から「維持管理の時代」へと移行していく中、施設の老朽化や財政状況の圧迫等、事業執行上の制約が増している状況です。

「町田市下水道アクションプラン」では、このような環境の中で、経営の観点も踏まえた適切な汚水・雨水管理を持続的に実施することを基本とし、必要な市民サービスを安定して供給していくための具体的な取り組みを示しています。2017年度から2021年度までの5年間を計画期間としている本アクションプランでは、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上について重点的に取り組んでいきます。

○編集・発行 町田市下水道部下水道総務課 (☎ 042-724-4290)

○所在地 町田市森野2-2-22

○発行年月 2017年3月

※このパンフレットは、500部作成し、1部あたりの単価は278円です。

主な取り組み内容と5ヶ年の目標

「町田市下水道ビジョン」で定めた7つの施策において、社会環境や経営状況、市民ニーズ等を踏まえて35の事業に取り組みます。ここでは、そのうちの主な取り組み内容と5ヶ年の目標を記載しています。

また、事業費としては、5ヶ年で約538億円が必要であると試算しています。

詳しくは、冊子「町田市下水道アクションプラン2017年度（平成29年度）～2021年度（平成33年度）」又は町田市ホームページをご覧ください。



◆ストックマネジメント手法に基づき、下水処理施設の詳細調査件数54件及び下水道管の点検・調査延長210kmについて予防保全型の維持管理を推進します。

◆効率的な維持管理やライフサイクルコストの最小化等を目的とした、ストックマネジメント計画による下水処理場・ポンプ場・下水道管の改築更新を行い、健全な設備の割合（健全度3以上）89.0%を目指します。

◆2020年4月からの地方公営企業法適用及び企業会計方式による経営戦略の策定を進め、経費回収率100.0%以上の維持を目指し、安定した下水道経営の構築を図ります。

◆市民の下水道事業についての理解度80.0%以上を目指し、継続的なPR活動を行います。

- ◆水洗化率 97.9%を目指し、污水管の整備や合併浄化槽への切り替え促進、污水管未接続家屋への接続指導を行います。
- ◆事業場への立ち入り調査や排水検査、改善指導を行い、污水管への油脂等の流入を防止し、管清掃費（緊急）13.0%削減を目指します。
- ◆高度処理化率 20.6%を目指し、既存の下水処理施設への段階的・高度処理方式の導入や高度処理施設の増設を行います。
- ◆市内約197kmの水路についての調査済率 100.0%とすることにより、適正な維持管理を推進します。



より良い環境

河川の水質向上への貢献

住環境の改善

地球温暖化対策と資源の循環利用

- ◆浄化槽維持管理費補助制度の対象者に対する三大義務実施率 100.0%を目指し、浄化槽の適切な維持管理についての啓発・指導を行います。
- ◆効率的な機器の運転等により、温室効果ガス削減率 13.0%を目指します。
- ◆エネルギー・資源の有効利用を推進するため、汚泥の再資源化率 98.5%を目指します。

次世代につなげる良好な水環境を目指して

持続可能な下水道財政の確立

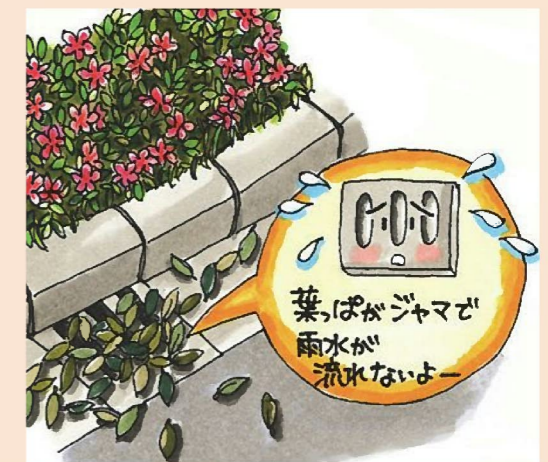
浸水対策の推進

効率的・効果的な維持管理の推進

地震対策の推進

より良い下水道サービス

安心な暮らし



◆2011年度から2015年度の浸水履歴を基に雨水管整備を進め、雨水管の面積整備率 38.2%を目指します。

◆治水安全度の向上を目的とした河川管理者・流域自治体との連携や、道路側溝等の目詰まり防止を目的としたパトロールの実施等により、水害による犠牲者ゼロを目指します。

◆「町田市下水道総合地震対策計画（第Ⅱ期）」に基づき、成瀬クリーンセンターの耐震化及び汚水幹線を中心とした下水道管の耐震化を進め、下水処理施設の耐震化率 60.1%、重要な幹線等の耐震化率 76.3%を目指します。

◆「マンホールトイレ整備事業計画」に基づき、マンホールトイレの整備を進め、マンホールトイレ整備済み避難施設数 48/71施設を目指します。